

第35回全国都市緑化やまぐちフェア「山口ゆめ花博」に参画して

山口県花き振興センター専門研究員

石 光 照 彦

1. はじめに

第35回全国都市緑化やまぐちフェア「山口ゆめ花博」は、平成30（2018）年9月14日から11月4日までの52日間、山口きらら博記念公園で開催されました。会期の前半は天候に恵まれず台風による休場もありましたが、その後は、さわやかな秋晴れの好天が続いたこともあり、当初目標の50万人を大きく上回る136万人を超える入場者でにぎわい、多くの人に花と緑を楽しんでもらうことが出来ました。

「山口ゆめ花博」では「ゆめの未来公園はじまる！」をキャッチフレーズに、「新しい公園」の利活用のモデルを提案しました。入場門は荷物を運ぶ木製のパレットが使われています。



入場門

会場は咲き誇る1,000万の山口県の花々に彩られ、「日本一長い竹のコースター」や「日本一高い木のブランコ」等の遊具が設置されており、幕末の長州を紹介する維新体験館、幻想的な夜間開園等、様々なイベントと体験プログラムが実施されました。

私の勤務する山口県花き振興センター（以下花き振興センター）では、「山口ゆめ花博」を契機に県民への花のある暮らしの提案および花育のさらなる発展、山口県育成品種の認知度の向上を期待し、花の谷ゾーン・修景植物の栽培技術支援、花育等に向けたセル苗生産、山口県が育成したユリ「ブチシリーズ」とリンゴ「西京シリーズ」の栽培支援等に取り組みました。



日本一長い竹のコースター



日本一高い木のブランコ



幻想的な夜間開園

2. 植栽計画

デザインコンセプトは「百花繚乱」で、多彩な花々が織りなす変化に富んだ時間と空間がデザインされま

した。

花の谷ゾーンのシンボル大花壇では、景観デザイナー・槇島みどり氏のデザインにより、「お出迎えの花庭」、「おいしい花庭」、「おもてなしの花庭」、「散策の花庭」、「学びの花庭」の5つのコンセプトの花庭をひとつの整形式庭園として構成し、整形式の庭園としては国内最大級の規模（約8,000m²）となりました。



花の谷ゾーンのシンボル大花壇

3. 植物調達

植物調達は県内花き市場などで構成される「山口県花き卸売市場協議会」が行いました。調達した植物材（苗、球根等）は県内の花き振興という観点から全量県内産とし、前年度の試験栽培で品種適地性等を確認したうえで選定されました。調達数は約100品目、200品種、78万個体（植え替え含む）で、多彩な植物内容でした。

花の谷ゾーンに植栽する植物は、鉢・苗物生産者15人が新品種や希少品種・人気品種等、約20万個体を生産しました。花の谷ゾーン外の修景植物は、草花切り花生産者55人がヒマワリ、コスモス等、約10万個体を生産しました。



花の谷ゾーンの植栽



ヒマワリ



コスモス



ユリ「プチシリーズ」



リンドウ「西京シリーズ」

会場全体を修景した山口県育成オリジナル品目であるユリ「プチシリーズ」については、球根切り花生産者31人が約10万個体を生産しました。リンドウ「西京シリーズ」については、寄せ植え大鉢90個体を生産しました。

山の外遊びゾーンや海の外遊びゾーン等、子供たちが多く集う場所には、子供たちの優しさや美しさを感じる気持ちを育むことを目的に、花育として県内の幼稚園、保育園等施設や小・中・高等学校等の園児、児童、生徒が植栽植物の栽培に取り組みました。

小・中学校等はサルビアとマリーゴールドの花苗栽培に取り組み、県内19市町169校の約31,500人の児童・生徒が参加しました。また、県内10の福祉施設もサルビア等の生産を担当しました。

農業高校6校は、寄せ植えやハンギングプランター2,250基の栽培に取り組みました。幼稚園、保育園等施設は「たねダンゴ」による会場内花壇栽培に取り組み、県内25施設の約1,500人の園児が参加しました。

植物材の納品・検収は、山口県花き卸売市場協議会および実行委員会事務局で行いました。納品・検収後は、施工者が各花壇まで運搬し、植え付けました。↗



県内中学校の生徒による植栽植物栽培

4. 維持管理

花の谷ゾーンと花の谷以外のゾーンの2つに分け、日々の巡視点検、灌水、病害虫防除、除草、花がら摘み、施肥、植え替えを造園業者に委託しました。ボランティアは主に花がら摘みを行いました。

特に夏季のバックヤードの管理作業は重要で、晴天時の手灌水作業は大変でした。

5. 植物調達体系と関係機関の役割分担

1) 植物調達体系

生産者	生産概要		納品数			品目概要
	納品サイズ	生産品内容	開園時	植え替え	合計	
鉢・苗物生産者	3.5号ポット	高品質・長期鑑賞品目	240,000	35,000	275,000	フェアオリジナル品目やピンカ等25品目
切り花生産者	3.5号ポット	修景用品目	35,000	70,000	105,000	ヒマワリ、コスモス
	3号ロングポット	オリジナルユリ	25,000	75,000	100,000	プチシリーズ等
学校関係等	3ポット	フェア参加品目	100,000	100,000	200,000	サルビア、マリーゴールド等
合 計			400,000	280,000	680,000	30品目程度

2) 関係機関の役割分担

①花き振興センター

- 栽培マニュアルの作成
- フェア納品に向けた試験栽培
- 高品質・長期鑑賞品目等（鉢・苗物生産者）の栽培
- 修景用品目（草花切り花生産者）の栽培
- オリジナルユリ（球根切り花生産者）の冷凍球根ポット栽培
- フェア参加品目（学校関係等）の栽培
- 栽培研修会開催支援
- セル苗生産（学校関係等）

②農林水産事務所（花き専門技術員含む）

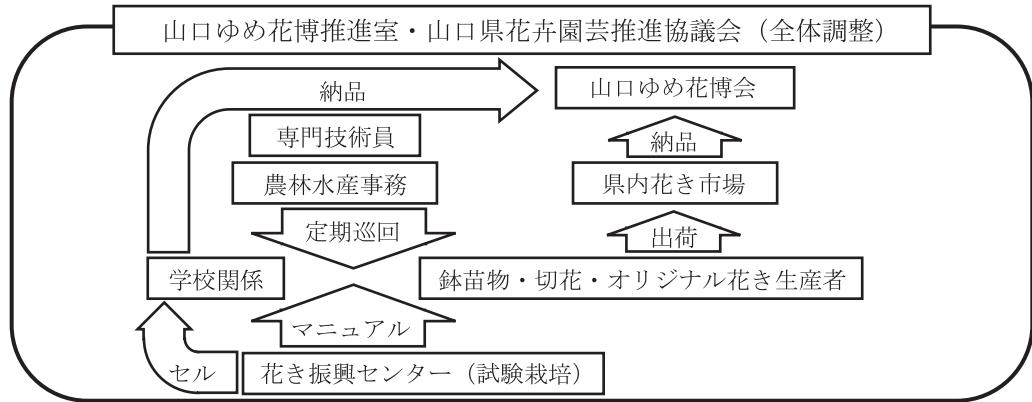
- 現地実証試験栽培支援（定期巡回等）
- フェア調達植物栽培支援（定期巡回等、学校関係含む）
- 栽培研修会開催

③農業大学校

- 修景用品目（切り花生産者）の生産

④山口ゆめ花博推進室、山口県花卉園芸推進協議会

- 全体調整
- 学校関係支援



6. 花の谷ゾーン・修景植物の栽培技術支援

会場装飾用の花は県内生産者により栽培されました。初めて栽培する品目や生産者の技術レベルも様々なため、栽培技術の統一が求められていました。そこで、開催時に安定的に花苗を納品するため、県下の全農林水産事務所において調査圃場を設け、栽培技術の統一を図りました。実施方法としては、花き振興センターが品目ごとの栽培班を編成し、一年前に栽培予定者を対象に試験栽培を実施し、作目ごとの研修会をそれぞれ2回行いました。研修会では品種、管理場所、作型、施肥、病害虫、鑑賞期間、検品・納品基準などを検討し、品目ごとの栽培マニュアルを作成しました。開催年には、現地農林水産事務所の普及担当職員と専門技術員が栽培管理状況を巡回調査で写真撮影し、山口県グループウェアキャビネットシステムを活用し、映像情報として関係職員が閲覧できる体制を整えました。また、使用する用土は、花博用の共通培養土を使用して栽培管理の統一を図り、栽培中に溶脱水調査を行い施肥管理の目安としました。

7. 花育等に向けた幼苗生産と栽培技術指導

サルビア、マリーゴールド、ピンカ、ペチュニアの種子を200穴セルトレイに播種し、幼苗（セル苗）生産を実施しました。サルビア5万株・マリーゴールド8万株のセル苗は県内169の小・中学校に配布し、児童・生徒がポットで育て、ピンカ・ペチュニア1万株のセル苗は農業高校6校に配布し、寄せ植えハンギングプランターで栽培し、花博会場に展示しました。栽培マニュアルを作成・配布し、花育に取り組む学校等での栽培管理状況を、映像情報等によりモニタリングし、必要に応じて栽培指導を実施することにより、効果的な花育となるよう支援しました。



作目ごとの研修会



セルトレイへの播種



幼苗（セル苗）生産

8. 県育成オリジナルユリ「プチシリーズ」 冷凍球根生産指導

オリジナルユリは山口県が育成したユリで、花の小さなヒメユリと花色の豊富なスカシユリを交配して切り花用に作られました。花の直径が10cm前後と小さく、花束やフラワー・アレンジメントに使いやすいのが特徴です。ジャパンフラワーセレクションや2016年トルコで開催された国際園芸博覧会（アンタルヤ花博）で優秀品種に選ばれました。小輪咲きの品種は、2005年に種苗登録した「プチソレイユ」をはじめとしてこれまでに11品種を育成してきました。

「プチシリーズ」の通常の開花時期は11月～翌春6月で、夏場に開花させるのは難しかったのですが、海外から冷凍輸入される球根の技術を参考に、「プチシリーズ」11品種の冷凍貯蔵技術を開発しました。球根の中にある芽の状態を調べて適切な冷凍期間を割り出し、9～11月の開花を実現しました。さらに、今回は花博会場に移植するため、ポット栽培の技術を新たに確立し、栽培マニュアルを作成しました。品種を開花の早晚で4つのグループに分けて定植時期を調整し、納品時期を4回に分けて植え替えすることで会期中（9～11月）の鑑賞が可能となり、當時約3万個体の

花が会場を彩りました。

9. その他

花博体験イベントとしてオリジナルユリ球根の植え付けと種を活用したシードアート鉢の作成を52日間実施し、好評でした。また、全国に先駆けて早い時期に咲く「西京の初夏」等のオリジナルリンドウの寄せ植え展示、世界にここだけの花パンジー3品種の愛称募集展示も会場を彩りました。山口市湯田温泉の伝説にちなんだ巨大キツネの稻わらアートや巨大足湯、山口県造園建設協会のモデル庭園「健康の庭」等は家族連れでにぎわいました。



パンジー3品種の愛称募集展示

10. おわりに

会期中、山口県内外から多くの来場者を迎えることが出来ました。ご来場をいただきました皆様をはじめ、ご協力をいただきました関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。令和元（2019）年10月11日～14日に花博会場でメモリアルイベント「ゆめ花マルシェw a m」が開催されます。花博で示された公園の可能性を進化させ、「地域に生き生きとした暮らしを実現する公園」に発展させることがねらいです。花き振興センターとしては今後も生産者・関係機関と一体となり、県産花きの生産振興に取り組んでいきます。今回、オリジナルユリがガーデン素材としての利用価値が高いとの評価をいただいたので、公園での植栽やガーデニング用途等、幅広い需要に応えていきたいと思います。



花き振興センター一同